

青梅市立総合病院

力あわせて

クラスター対策を

青梅市市立総合病院で新型コロナウイルス感染のクラスターが発生し、患者、職員あわせて65名が感染しました(10月6日時点)。この時点での最後の感染確認は10月3日とのことです。

発端の感染者は8月に判明しましたが、その後、医師、看護師、技術職、患者の方々に感染が広がり、感染者の濃厚接触者についてPCR検査、隔離(保護)して対応しましたが、感染の拡大を止めることはできませんでした。

幅広い検査の実施に

日本共産党は、医療機関や高齢者施設については、定期的なPCR検査の実施を求めています。また、市議会においても、今回のクラスター発生が判明した後、早期に職員全員のPCR検査を行うことを求めています。

市議会は、9月18日に新型コロナ特別委員会を開催。「全病院職員のPCR検査をすべき」との意見が委員会の総意として示され、病院側も広く検査をすることを了承しました。この全病院職員の検査は、9月末に行われ、全員の陰性が確認されました。

市民・医療機関守る対応を

日夜、新型コロナ対応や市民の健康を守るために努力されている医療機関のみなさんを支えるため、経営の支援を含めた医療機関の支援、適切な検査や発熱外来の設置などの対応が必要です。

青梅市では、発熱外来機能を含む夜間休日診療施設の建設が決まりました(来年6月稼働予定)が、さらに対応を強化するために、今回の問題を教訓にするべきです。

買い物 病院 「坂道が大変」

コニバス
走らせよう

青梅市には他市では当たり前の「コミュニティバス」が走っていません。高齢化が進み「免許の返納」が強調されている今、いよいよこの問題に真剣に取り組むべきではないで

しょうか。

去年は、河辺下地区で市民の要望などの聞き取りが行われましたが、もっと多くの地域でこうした取り組みを行うことも求めます。

日本共産党青梅市議団

青梅市議会議員

藤野ひろえ

活動報告 2020年10月9日号

ご連絡は090-4003-9987
hujino.hiro26@gmail.com

